

管理職による授業観察

一人一人の教師が、長い教員生活で自信をもって過ごすことのできる安定した授業力を、学校の中で、管理職の力で、日々のOJTで育成する。

<p>1日複数回の授業観察</p>	<p>校長、教頭で分担し、1日複数回の授業観察</p> <hr/> <p>○教師にとって「毎日、見て（支援して）いただいている」という安心感と、「きちんと準備をした授業を見ていただきたい」という程よい緊張感が醸成され、授業改善が促進される。</p> <p>○児童生徒にとっては、学習の様子を他者から見られることに慣れ、全校的に外に開かれた雰囲気が醸成される。</p> <p>○特別な支援が必要な児童生徒、問題を抱える児童生徒の様子を観察し、必要に応じて支援を行うことで、学級担任、教科担当との信頼関係を築くことができる。</p> <p>○全ての授業を観察すると同時に、1日1人程度の授業を、1時間フルで観察する。1時間観察することで、「良さ」や「課題」がより深く見えてくる。</p>
<p>観察の位置</p>	<p>廊下からではなく、教室に入っでの授業観察</p> <hr/> <p>○教室に入り、観察することで、児童生徒の学習状況や学級の雰囲気がつかめる。</p> <p>○教師と子供達との関わりが、より明確に捉えやすくなる。</p> <p>○学習環境に対する、教師の工夫や配慮を知ることができる。</p>
<p>観察の視点</p>	<p>「授業における基本事項」等に基づく授業観察</p> <hr/> <p>○観察の視点を明確にもつことで、自校の授業改善の進み具合を把握することができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・例えば、4月当初は「チャイム開始」「チャイム終了」の学習規律が意識されているかを徹底的に見ていく。 ・例えば、「めあて」を見て、どういった「まとめ」「振り返り」になるかを意識して見ていく。 ・例えば、子供達のノートと教師の板書が連動しているかを確認する。
<p>フィードバック</p>	<p>年間を通して、継続して「学び続ける」教師を支援する授業観察</p> <hr/> <p>○個々の教師の「良さ」や「課題」を、次のように伝えることで、課題意識をもって授業改善に取り組む教師が育成できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・その日の授業観察で見えた「良さ」や「課題」を、「授業後に直接口頭で伝える」「メモで伝える」「写真とコメントを添付した『即席記録』を提供する」ことで、意欲付けができる。 ・「週案」を通して伝える。 ・全体に共通する「良さ」や「課題」をまとめて、「職員連絡会」等で定期的に伝える。
<p>共有</p>	<p>教師や保護者に良さを共有できる授業観察</p> <hr/> <p>○授業改善が進むと、児童生徒の学習意欲が更に高まり、表情が豊かになる。「伝えたい」と思う授業場面が増えていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・見本となる「板書」や「ノート」を記録し、全職員に紹介するなど、校内で共有する。 ・授業の中での児童生徒の活躍を、「校長だより」「学校だより」等で教師や保護者に伝える。